

# 燈光





## 新年あいさつ

燈光会会長 岩崎 貞二

新年おめでとうございます。

燈光会の一番の使命は、多くの方に灯台を楽しんでもらって、体験してもらって、知ってもらってだと思つていきます。参観してくれる人は比較的順調です。出雲日御碕灯台へのアクセス道路が豪雨災害により約2ヶ月間通行止めになり、平安名埼灯台が落雷による電気設備障害のため昨年10月以降参観中止となっているなど、痛手はあるのですが、昨年度とほぼ同様のペーシの参観者数を維持しており、今年度も70万人の方が参観してくれることになりそうです。

70万人は、燈光会が参観業務をおこなっている全国16ヶ所の「のぼれる灯台」にのぼってもらった人の累計です。灯台まで来てのぼらなかつた人が約1/2と勝手に推計すると、140万人の人が16の灯台を訪れ

てもらったこととなります。統計がないのですが、世界の国で灯台を訪れた人ベストテンでもあると、絶対ベスト3には入っていると思います。

インバウンドの人も灯台に来てくれています。沖縄の残波岬灯台は約1/3が外国人とのこと。平安名埼灯台を除くと、まだ数%ですが、これから増えていくと期待しています。外国語のパンフレットを作ったりPayPayで参観寄付金を支払えるようにしたりと対応しています。

昨年11月には銚子市で5回目の灯台ワールドサミットが開催されました。参観灯台がある市町村の集まりです。志摩市、御前崎市、銚子市、出雲市、男鹿市の市長さん、尻屋埼灯台の地元の東通村の村長さんがメンバーです。これまでワールドサミットの事務局は日本航路標識協会が担当されていましたが、今年度から

燈光会が引継ぎお手伝いをしています。

灯台に来ていただくには、燈光会だけの力では不十分なので、一層地方公共団体と連携を図り、支援をお願いすることが重要だと思っています。今は6つの市長、村長さんの集まりですが、16ヶ所の「のぼれる灯台」の地元市町村長の皆さんが参加してくれるといいなと思っています。

6市町村以外の市長さんたちのいくつかを訪問してお願いしてきました。残念ながらサミットに新たに参加する市町村はまだありませんが、お会いした市長さんたちは皆さんその街にある灯台のことを大事に思っていて心強い限りです。

重要文化財の灯台等が15に増えました。のぼれる灯台では、令和4年度に尻屋埼が指定され、犬吠埼、御前埼、出雲日御碕、角島と合わせて5つになりました。そのほかに10基の灯台等が指定されています。去年の挨拶で一つぐらいは国宝にと、夢みたいな話を書きました。調べてみると、明治以降の建物でも国宝に指定されているものがあります。赤坂の迎賓館、富岡製糸場、松本の開智学校。燈光会の理事もしていただいている東京工業大学名誉教授の藤岡先生にお伺いした

ら、数年は無理だろうけれどそのうち可能性がないわけではないとのこと。満更初夢ではないかも。

のぼれる灯台の現場のスタッフも頑張っています。事務局も、少ないスタッフで企画的な仕事、対外的な調整など（灯台を世の中の人が関心を今まで以上に持ってきてくれたおかげで撮影依頼、取材などが増えています。）をこなしてくれています。皆さんの支援を得て、より一層。よろしくお願いします。

16の灯台以外も季節や曜日を限定して参観されているところが増えてきました。燈光会はあまりこれらの灯台のお手伝いをしてきませんでしたが、ご要望があれば協力します。一緒になって灯台の良さを皆さんにもっと知ってもらえばいいなと考えています。



## 年頭のご挨拶

海上保安庁交通部長 石塚 智之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素からの海上保安業務に対するご支援・ご協力に  
対しまして、心よりお礼申し上げます。

また、(公社)燈光会におかれましては、灯台参観事  
業をはじめ、航路標識に関する理解促進にご尽力いた  
だくとともに、海上交通の安全意識の向上にも貢献い  
ただいておりますこと、重ねて感謝申し上げます。

まず、昨年1月1日に発生した能登半島地震、さら  
には9月に発生した奥能登豪雨により、被災された皆  
様ならびにそのご家族の皆様、未だ仮設住宅での生活  
を余儀なくされている皆様に心よりお見舞い申し上げ  
ますとともに、被災地の日も早い復興を心よりお祈  
り申し上げます。

昨今、我が国の海上の安全を取り巻く環境は刻々と  
変化しています。

海上保安庁は、それに伴う様々な要請に的確に応え  
るべく、令和5年3月に交通政策審議会から答申され  
た「第5次交通ビジョン」に基づき、次世代燃料船の  
燃料供給に対する安全対策、洋上風力発電設備の設置  
海域における安全対策、自動運航船の実用化に向けた  
安全対策、活発化・多様化するマリナーに関する  
安全対策などの諸対策や、灯台等の耐災害性の強化  
などの取組を推進しております。

このような中、海上保安庁では、昨今の若年人口の  
減少、社会的価値観の変化といった社会的情勢等の影  
響もあり、人材確保が困難な状況となるなど、様々な  
課題に直面しています。

これらの課題に対し、国民の皆様への期待に応え、職  
員一人ひとりが生き生きと働き続けることができる組

組織であり続けるためには、業務・働き方を改善していくことが必要であることから、海上保安庁は、令和4年に「海上保安庁の強靱かつ持続可能な業務体制の構築に向けた検討委員会」（通称カイゼン委員会）を立ち上げました。

そして、令和6年にはこれを「海上保安庁カイゼン推進本部」へと格上げし、目指すべき組織のビジョンを「ヒトを大事にする組織」、「現場対応能力の高い組織」、「時代に応じて変化する組織」とし、これらを実現するため、勤務環境や処遇の改善、ライフワークバランス・女性活躍の推進や人材確保策などによる「人的基盤の強化」、デジタル化推進や新技術の導入などによる「業務の効率化・高度化」、社会情勢等に適応した業務遂行体制の構築のための「今後の海上保安業務のあるべき姿の検討」に取り組んでおります。

このうち、航路標識に関連した取組としましては、航路標識のバーチャルA I S置き換えによる既存航路標識の削減や航路標識の監視体制強化対策による業務効率化などを推し進めております。

また、昨年8月、文化審議会からの答申により、大浜埼灯台（広島県尾道市）が重要文化財に指定される

こととなりました。これで灯台の重要文化財指定は15件となります。灯台は、船舶の安全な航行に必要な不可欠な「海のみちしるべ」ですが、近年においては歴史的、文化的価値を有するものとして注目されるとともに、観光資源としても親しまれるなど、新たな価値や役割を生み出しております。

さらに、昨年は、灯台記念日（11月1日）に係る関連行事が全国で開催されるなど、各地で賑わいを見せました。当庁としましても、国の重要文化財に指定されている大浜埼灯台において、初点灯から150周年を祝した「大浜埼灯台150周年記念」に携わるなど、地方公共団体や航路標識協力団体等と連携し、全国各地の灯台で様々なイベントを開催いたしました。今後このような活動が灯台をはじめ航路標識の周知啓発と海上安全思想の普及に繋がっていくことを期待しております。

結びに、我が国の航路標識事業の発展に貢献してこられた皆様のご努力に対して、心より敬意を表するとともに、今後の一層のご活躍を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 令和6年 交通部の主な取組

海上保安庁交通部企画課

## 1 国際航路標識機関条約の発行

～世界の航路標識の発展のために～

令和6年5月24日、国際航路標識機関条約の批准国が30か国に到達し、その後90日を経た8月22日に同条約が発効し、国際航路標識機関（IALA）が誕生しました。

IALAの国際機関化への移行は、組織体制の強化等を通じて航路標識に関する国際協力をより一層強化することを目的としたものであり、それにより、機関で作成された勧告等に係る国際基準としての実効性がさらに高まる等の効果が期待されています。IALAは令和2年に条約案を採択し、我が国は令和3年にこれを締結しました。

海上保安庁は、昭和34年に国家会員として旧IALAに加盟して以降主導的な役割を担ってきました。昭和50年には理事に初めて選出され、それから12期に渡

り連続して選出されるなど、各国からその活動を高く評価されています。

活動の一例をあげると、海上に設置される航路標識の意味・様式等の統一は19世紀からの課題であった中、昭和55年にIALA浮標特別会合を東京で開催し、これら航路標識の意味・様式等を統一する国際的基準である「IALA海上浮標式」をとりまとめ各国の合意を得るなど、その策定に大きく貢献しました。近年では、平成28年から常設委員会のひとつである、次世代の電子航行システムを検討するデジタル技術（DTEC）委員会（令和5年に前身のENAV委員会から改称）の議長を交通部職員が務めているほか、新たな海上デジタル通信方式であるVHFデータ交換システム（VDES）の技術開発を率先して進め、関連するワークショップを主催する等、航路標識分野における国際的なルールづくりにおいて主導的な役割を担っています。さらに、令和5年11月には、東京において、国際航路標識機関条約に基づく機関の運営に関する一般規則等案を作成する会合を海上保安庁主催のもと開催しました。

令和7年2月には国際機関化後初となる総会がシンガポールで開催されることとなっており、国際機関と

しての活動がいよいよ本格的に始まります。

海上保安庁は、国際機関へ移行した後も引き続き、航路標識分野における同機関での活動に加盟国等と協調して積極的に貢献するとともに、国際的なルールづくり等に率先して取り組んでいきます。

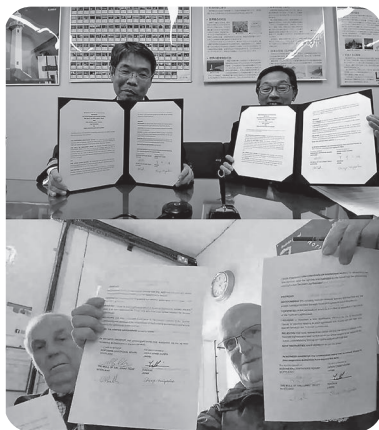
## 2 世界初の姉妹灯台提携

海上保安庁は、令和6年11月21日、我が国から燈光会、スコットランドから北部灯台局及びマル・オブ・ギャロウエイ・トラストと共に、犬吠埼灯台（千葉県）とマル・オブ・ギャロウエイ灯台（スコットランド）の姉妹灯台提携に関する協力覚書に署名しました。

姉妹灯台の提携は世界初の取組であり、起源や地理的特徴などが似ている2つの灯台を結びつけることによって、両灯台に関連する地域の観光振興や国際交流の促進されることが期待されます。

犬吠埼灯台と姉妹となったマル・オブ・ギャロウエイ灯台は、スコットランド最南の灯台であり、スコットランドの灯台技師であるロバート・ステイブンソンにより設計されました。初点灯は1830年であり、2024年に初点灯から150年を迎えた犬吠埼灯台より、44年早く迎えています。

犬吠埼灯台はリチャード・ヘンリー・ブラントン、マル・オブ・ギャロウエイ灯台はロバート・ステイ



署名式



マル・オブ・ギャロウエイ灯台



犬吠埼灯台

ブンソンと、共にスコットランド人技師によって設計されました。また、リチャード・ヘンリー・ブランドンは、1868年に来日するに際して、ロバート・ステイブンソンの家族が経営するステイブンソン事務所で技術研修を受けています。このように、両灯台は、起源や地理的特徴のみならず、設計者同士についても共通点のある灯台です。

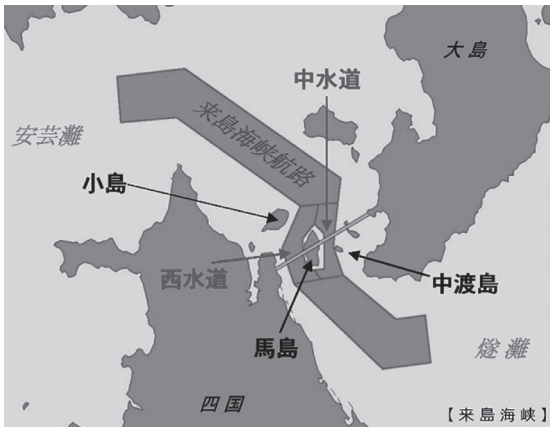
今後この提携に基づく協力として、両灯台の歴史や灯台技師ブランドンの貢献等に関する写真やビデオなどの相互展示、人的交流と情報交換を目的とした両灯台の相互訪問等を実施することを予定しています。また、この提携は世界初の取組として国際航路標識機関（IALA）の理事会においても紹介され、諸外国からも高く評価されるとともに、署名式については国内外の新聞等で取り上げられ、注目を集めました。

### 3 来島海峡西側海域における安全対策

来島海峡は、愛媛県今治市沖に位置し、沖合いに浮かぶ大島との間（約4キロメートル）を隔て四つの狭い水路からなり、所により複雑な流向、流速が発生する海域です。馬島と小島の間を西水道、馬島と中渡島の間を中水道と呼び、来島海峡航路は西水道、中水道

及びこれらの水道に接続する海域により構成されています。

来島海峡航路は、潮流の流向によって通航方式が右側通航から左側通航に変わる世界で唯一の『順中逆西』航法が採用されており、航路の出入口付近において船舶同士の進路の交差が生じます。航路も大きく湾曲していることに加えて潮流も早く、全国でも有数の船舶の難所とされており。



来島海峡西側海域では、令和3年及び令和5年に死者・行方不明者を伴う船舶同士の衝突が相次いで発生したことから、同海域における航行環境の改善に向け、検討を行いました。

来島海峡西側海域は、来島海



海峡航路を通航する一般船舶が輻輳するとともに、多数の漁船が操業する海域でもあります。

学識経験者、海事関係者、漁業関係者及び関係官公庁等地域の多くの関係者が参加する航行安全対策委員会を開催し、当該海域における航行環境改善策として来島海峡航路西口に海上交通安全法第25条第2項に基づき新たに『経路』を指定するとともに、当該経路を航行する際に支障となりにかねない灯浮標（安芸灘南航路第四号灯浮標）を廃止すること等が妥当とする結論が得られました。

海上保安庁では、同委員会での検討結果をふまえ、安芸灘南航路第四号灯浮標を廃止するとともに、令和



**海上保安庁**  
来島海峡航路に出入りする際の「経路」を新たに指定します

2024年7月1日10:00開始

来島海峡航路を航行する船舶は、海上交通安全法第25条第2項に基づく告示により指定される経路によって航行する必要があります。  
(告示の趣意は掲載していません。)

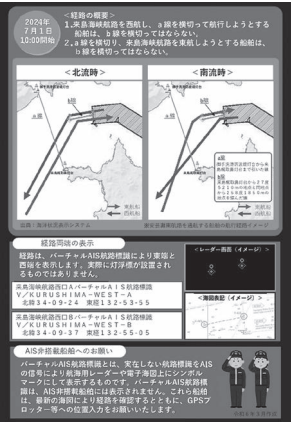
経路の指定に合わせて安芸灘南航路第四号灯浮標を廃止し、付近の播磨航路を短縮します。

経路指定領域  
船舶  
船舶  
船舶

安芸灘南航路第四号灯浮標を廃止

経路の指定は、AIS搭載船舶の表示および灯浮標の廃止等に関する情報は、郵政省海上保安庁ホームページからご確認ください。  
<https://www.souan.go.jp/ais/>

問い合わせ先 郵政省海上保安庁警備部警務課 船舶課 庶務係 電話 052-951-3110



2024年7月1日10:00開始

経路の指定は、AIS搭載船舶の表示および灯浮標の廃止等に関する情報は、郵政省海上保安庁ホームページからご確認ください。  
<https://www.souan.go.jp/ais/>

問い合わせ先 郵政省海上保安庁警備部警務課 船舶課 庶務係 電話 052-951-3110

【来島海峡西側海域経路指定リーフレット】

6年7月1日より、来島海峡航路西側に新たに経路を指定しました。

新たなルールがスタートしてから現在までのところ、来島海峡航路西側入口において、事故等は発生しておりませんが、今後も来島海峡航路をはじめ、船舶交通の安全確保に努めてまいります。

4 朝日新聞とのコラボ！水難事故マップで海難発生場所の見える化

令和5年に海上保安庁が取り扱った船舶事故は1,798隻で、人身事故は2,380人でした。海上保安庁では、船舶交通の安全確保や海浜事故防止に関する様々な事故防止対策を講じています。今回は、朝日新聞社とコラボした水難事故マップについてご紹介させていただきます。

海上保安庁は、朝日新聞社とコラボし、令和6年の夏休みシーズンを前に、平成25年〜令和4年の10年間に全国の海などで発生した水の事故の発生場所を調べられる「水難事故マップ」を朝日新聞デジタルで公開しました。

水の事故の発生場所を一括で確認できる全国マップは初となります。

「水難事故マップ」を作成するにあたり、海難データの提供や事故が集中するエリアを管轄する管区海上保安本部等の取り組みを紹介するなどの協力を行っています。

これまで、位置情報を含んだ事故データの提供は行っていませんでしたが、同マップを作成するには位置情報が不可欠であったことから他機関の公表状況を参考にデータ



【水難事故マップ】 <https://www.asahi.com/special/water-accident/>

提供範囲を再検討し、初めて位置情報を含んだ事故データを提供することになりました。

本提供データを朝日新聞社が分析した結果、死亡や行方不明者が10年間で5人以上いた場所が全国に47カ所、10人以上だと7カ所あることが判明しました。同マップでは、こうした事故が多発しているエリアを「重大事故集中エリア」とし同マップで確認できるようにしています。

水の事故に遭わないために、もし事故に遭ってしまったらどうすればいいか。いざというときのノウハウをまとめた特設ページ「水の事故を防ぐために 安全対策Q&A」もあわせて公開しています。

## 5 ウォーターセーフティガイド遊泳編の改修

ウォーターセーフティガイドとは、遊泳・モーターボート・水上オートバイ・スノーケリング・カヌー・SUP・ミニボート・釣りの8種類の水上のレジャー活動について、誰もが安全に楽しむために知ってほしい情報をまとめた総合安全情報サイトで、平成30年4月から海上保安庁ホームページで運営しています。

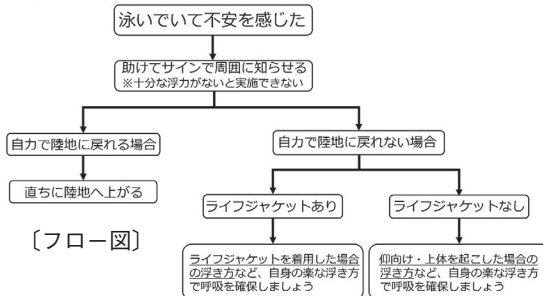
本ガイドは、国の関係機関や民間の関係団体などが参加する意見交換会において、合意・推奨された事故

防止のための情報を取りまとめたいものを掲載しています。

今回は、令和5年度に掲載情報の実化を図ったウォーターセーフティガイド（遊泳編）についてご紹介させていただきます。

● 海水浴場に持っていくもの  
これまでは、遊泳者の泳力や海域の状況などを考慮し、必要に応じたライフジャケットや浮

- 海では呼吸を確保することが、最も重要です。
- 呼吸を確保するためには、浮力を確保することが有効です。
- 海では体の約5%（淡水では約2%）しか浮きません。
- 浮力を確保するためにも、ライフジャケットを着用しましょう。



浮き方の例は、「身に危険が逼ったと感じたときの対処法 3 浮き方の例」で紹介しています。

### 基本姿勢



### 波や風の影響がある場合



## ウォーターセーフティガイド二次元コード▶▶



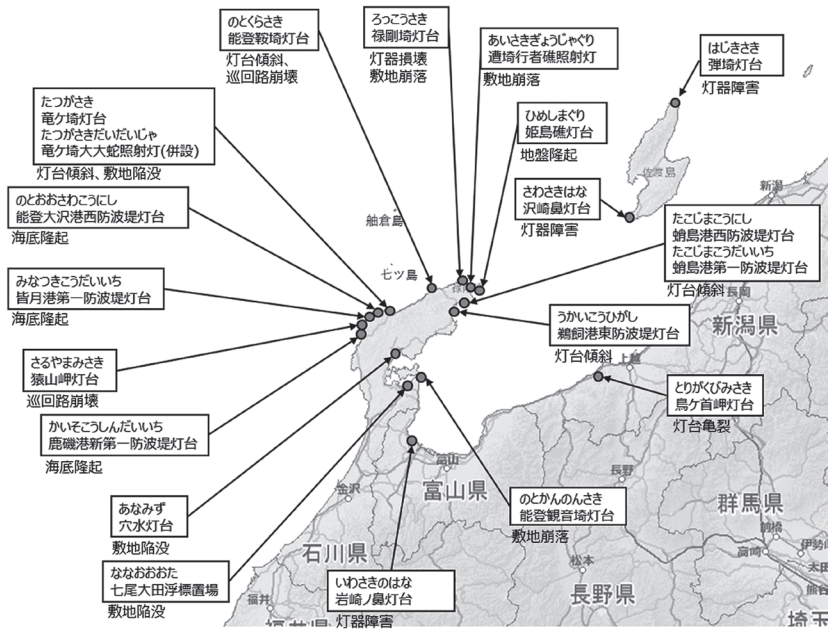
力体の着用について推奨していましたが、関係団体等との意見交換会において、溺水事故を防止するためには、遊泳者の泳力等に関わらず、ライフジャケット等の着用や緊急時の連絡手段として防水パック入り携帯電話の携行が必要であると

の共通認識が確認できました。  
今後は、ライフジャケット等の浮力体の着用や防水パック入り携帯電話の携行について一層推進してまいります。

● 身に危険が迫ったと感じたときの対処法  
泳いでいて不安を感じた際の対処法について、視覚的に分かりやすくするため、フロー図を用いて説明しております。自力で陸地に戻れない場合は、自身の楽な姿勢で浮いて救助を待つことが大切です。

本編では、ライフジャケットの着用の重要性に加え、セルフレスキューとして、複数の浮き方について動画を用いて例示しております。

6 能登半島地震で被災した航路標識の復旧に向けて  
石川県能登半島地方では、令和6年1月1日に発生した最大震度7（マグニチュード7.6）の地震及び



【図1】被災状況

同年9月21日の豪雨により、灯台をはじめとする航路標識及び関係施設に甚大な被害が生じました。本稿では、被災状況及び復旧に向けた取組について紹介いたします。

(1) 被災状況

① 能登半島地震による被害

能登半島地震では、灯台等20箇所が被災しました。

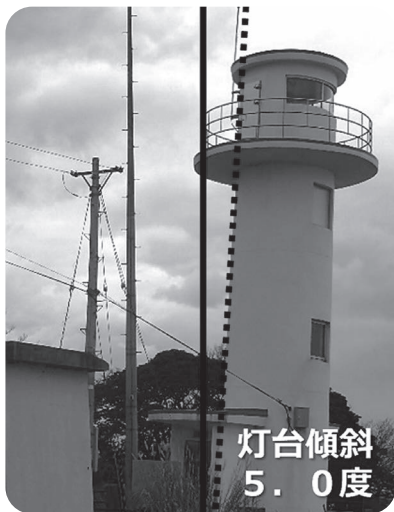
(図1)

地震直後に電力会社からの電力供給が途絶えたことによる消灯、灯器の損傷、周辺地盤の隆起により灯台が傾斜したもの、周辺地盤に亀裂が生じたもの、崖崩れが生じたもの等、様々な被害が生じました。(写真1、2)

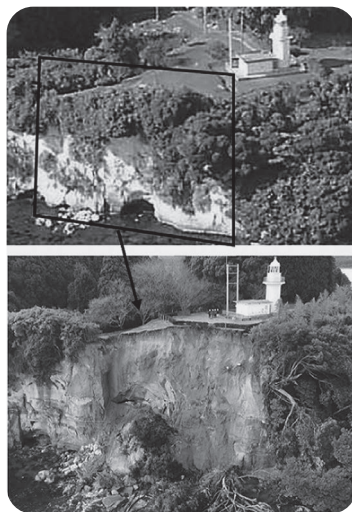
② 豪雨による被害

令和6年9月の豪雨では、観測史上最大となる猛烈な雨が降り続き、能登半島地震で脆弱となった地盤では地割れや崖崩れが発生しました。

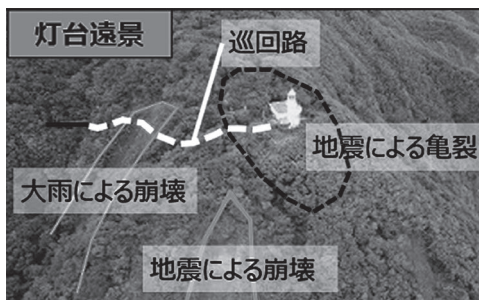
これにより、猿山岬灯台と竜ヶ埼灯台周辺の敷地及び巡回路が崩壊したほか、交通道路の損壊により灯台へ辿り着くことすら不可能な状態となりました。(写



【写真1】灯台の傾斜状況



【写真2】崖崩れの状況



【写真3】猿山岬灯台の周辺状況



【写真4】竜ヶ崎灯台の周辺状況



【写真5】仮の灯器による応急復旧状況

真3、4)

## (2) 復旧計画

海上保安庁では、これら被害状況の把握を進めるとともに次のとおり復旧計画を作成し復旧に向けて作業を進めています。(各復旧計画の内容は主なものを記載しています)

### ① カテゴリーⅠ(短期復旧計画)

灯器に「水銀槽式回転装置※」を使用している灯台では、地震により水銀槽から水銀が漏れ出し、灯器の異常により正常な状態で灯火を点灯させることができ



【写真6】 上：水銀槽式回転装置  
下：LED回転型灯器

なくなつたため、仮の灯器を設置することにより応急復旧しました。これらは「LED回転型灯器」という灯器を設置することにより令和6年度中の本復旧を目指しています。(写真5、6)

### ② カテゴリーⅡ(中期復旧計画)

地盤隆起や地震動により灯台等が傾斜して損壊したもの、敷地崩落や地割れ等が発生したものについては、周辺地盤の地質調査を行い所要の地盤改良や灯台等の建て替え工事を計画しています。

これら規模が大きいものは復旧に複数年を要する見込みです。

### ③ カテゴリーⅢ(長期復旧計画)

他機関等が管理する用地、道路が被災した箇所所在する灯台等については、管理者と連携して復旧計画を検討しています。

これら被害規模が大きく関係機関等との調整が必要なものについては、復旧に長期間を要する見込みです。

このように、能登半島地震及び豪雨では多くの航路標識及び関係施設に被害が生じました。航路標識は、船舶交通の安全確保に必要な不可欠なものであるため、早期復旧に取り組んでまいります。

※水銀槽式回転装置

比重の大きい水銀に重量物（レンズ）を浮かせ、小さいトルクで回転させるための装置

## 7 海上保安学校管制課程募集

海上交通センターは船舶のふくそうする海域に設置しており、24時間体制で船舶に対する情報提供や航行管制を行っています。運用管制業務が複雑化・高度化していることを背景に、高い知識・技能を持った運用管制官を継続的に養成していく必要があるため、平成30年4月、海上保安学校に管制課程が設立されました。

現在、管制課程には6期生（13名）と7期生（9名）が在学し、国際航路標識機関が定めたカリキュラムにより、運用管制官に必要な知識・技能の習得に励んでいます。なお、これまでに管制課程1期生から5期生までの計71名が海上保安学校を卒業し、全国の海上交通センター等において活躍しています。

運用管制官は、「海の管制官」として英語を駆使し



管制課程6期、7期学生と管制教官たち

て情報提供等を行います。無線を通じて自分の声で海難事故を未然に防ぐことができる仕事は、陸上においても船の安全を守ることが実感でき、巡視船に乗り組む海上保安官とは違ったやりがいがあります。また、海上保安庁は「男の社会」のイメージがありますが、多くの女性職員が海の管制官として活躍していることもあって、無線通信では「女性の方が聞き取りやすい」という声が多く聞かれます。

このように魅力の多い運用管制官の仕事ですが、近年の人材確保難のなか、いかに効果的な学生募集活動を実施し、管制課程学生を確保することができるかが課題となっています。

引き続き、学校訪問や海上交通センター業務見学会等の活動を推進していくとともに、海の管制官ポータルサイトや各種SNSを利用して情報を発信し、海の管制官の認知度向上や魅力を伝えていきます。



## 【海の管制官を目指そう】

海の管制官の情報をポータルサイトに集約!!  
みんなで海の管制官を目指そう!!



海の  
管制官





# お陰様で名古屋港海上交通センター運用開始30周年

## 第四管区海上保安本部名古屋港海上交通センター

### 1 はじめに

名古屋港海上交通センターは、名古屋港における船舶交通の安全性及び効率性を向上させることを任務とし、海上保安庁が設置し運用しています。その誕生の背景には、地元官民の協力により幾多の困難を乗り越え発展してきた名古屋港の歴史と、平成元年8月23日、



名古屋港海上交通センター全景



運用管制室

名古屋港関係5団体（名古屋商工会議所、名古屋港振興協会、名古屋海運協会、名古屋港運協会、名古屋港利用促進協議会）から運輸大臣及び海上保安庁長官に対し「名古屋港における交通管制システムの近代化に関する要望」という、地元からの陳情をいただいた経緯があります。平成6年7月15日の運用開始以降も名古屋港が、航路を閉塞するような大きな海難も無く、また貨物取扱量も20年以上連続日本一を誇る安全な港となっているのは、ひとえに地域の皆様を始め、名古屋港を利用される船舶運航者の皆様によるお力添えとご尽力の賜物です。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

### 2 開設前の状況

海上保安庁による名古屋港における管制業務は、昭和29年4月から始まっており、当時は西突堤灯台信号所と中央ふ頭灯台において、赤灯と緑灯を使って夜間

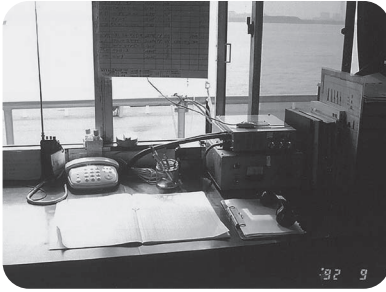
における入出港管制を行っていました。昭和37年9月から灯標内に伊勢湾灯標信号所が開設され、昭和40年4月に高潮防波堤信号所（中央堤東）、昭和43年8月に高潮防波堤西信号所（中央堤西）が開設（同年7月に伊勢湾灯標信号所廃止）されました。その後、金城ふ頭の造成工事に伴って昭和47年1月、西突堤灯台信号所は金城信号所（現在の名古屋港海上交通センター付近）へと移設されました。

### 3 現在の状況

当センターは平成6年7月から、名古屋市最南端に位置する名古屋港海上交通センター（名古屋船舶通航



平成4年当時の金城信号所外観



同事務室



空中線回転機構部の交換工事



現在のレーダー卓

信号所、金城船舶通航信号所）と、高潮防波堤東信号所、高潮防波堤西信号所及び名古屋北信号所と、従前の港内4か所の信号所を統合する形で構成し運用を開始しています。近年では令和3年10月、情報信号板と管制信号板のLED化工事（視認性の向上、消費電力軽減）、同年11月、空中線回転機構部の交換工事（耐風圧性能の向上）、令和4年1月、海上交通情報処理システム装置等の換装工事（船舶動静把握機能の向上）が行われ、船舶運航者の方々から信号板が「見やすくなった」とのお声を頂いたほか、災害に強い最新のシステムで運用しています。

## 4 運用管制官の育成



認定証伝達式（徽章の交付）と  
取材の様様



現場研修の様子

名古屋港海上交通センターにおいては、統括運用管制官、主任運用管制官、運用管制官、運用管制官付で構成される当直班により、24時間体制の業務に当たっています。

運用管制官は、京都府舞鶴市の海上保安学校「管制課程」と、福岡県北九州市の海上保安学校門司分校において養成しています。こ



海と日本PROJECT

の海上保安学校の管制課程学生に対する2年間の研修及び海上保安学校門司分校の運用管制官に対する研修の課程は、それぞれ国際航路標識協会（IALA）が定める国際標準を満たすものと認定されており、国際標準に沿った運用管制官の育成体制が整っています。これら学校での研修及び現場研修にて知識技能の向上を図り、運用者資格認定審査に合格した者に認定証と徽章が授与され、晴れて運用管制業務に従事することになります。令和6年8月、運用管制官付（海上保安学校管制課程5期生）への認定証伝達式は、地元のホテルから放映されました。（動画は二次元コードから！）

## 5 当センターの取組みと主な30周年記念行事

昨年度は、初夏の航路内漁船蝟集時に運用管制官の適切な情報提供と、名古屋海上保安部の巡視艇との連携による貨物船の安全な水域確保について、伊勢三河湾水先区水先人会からお礼のレターを頂きました。通常の業務対応に、お礼状をいただいたことはここ数年で初めてで、名古屋港長である名古屋海上保安部長から、「お礼状へのお礼」を書面でお伝えするということがありました。こうした感謝の言葉のやりとりは、

職員の士気もおおいに上がりました。

このほか中部地方整備局、伊勢三河湾水先区水先人会、邦船三社を始め、代理店会さま等各関係機関による施設見学、意見交換を行ったほか、生徒、学生による職場見学や出前授業、模擬講座にも積極的に取り組んでおり、相互交流から顔の見える関係構築に努めています。子供達には、海に関心を持っていただき、海という場を将来の選択肢に選んでいただく一助になれば幸いです。

また、運用開始30周年の節目を迎えるということを利用し、部内外への情報発信と職員モチベーション



地元の名古屋市立野跡小学校での  
出前授業



伊勢三河湾水先区水先人会様との  
意見交換

向上に努めています。昨年度はまずは「プレイベント」を企画、名古屋港海上センター設立の歴史を振り返り、地元への感謝と存在意義を見つめ直し、様々な記念イベントを実施しています。

30周年記念行事の企画・諸準備にあたって、定期異動間もない令和6年4月、所内に両次長をヘッドとした「30周年記念行事PT」を立上げました。本年6月、設立時の地元からの陳情5団体の一つである名古屋商工会議所の若鯨会（若手経営者・後継者育成のための異業種交流団体）への当センター灘波陽子所長による記念講話を始め、7月は総務省東海総合通信局、（一財）日本航路標識協会、JRC及びサンコーシヤと連携した公募によるラジオ工作教室、異業種交流（厚生労働省東海北陸厚生局麻薬取締部、総務省東海総合通信局）、8月1か月間は公募による学生募集個別説明会、10月は民放ラジオを通して海の管制官のPR、11月灯台記念日関連行事としても絡めて、地元小学校、灯光会・海上保安協会名古屋支部・海上保安友の会を招待しての見学会を開催しました。参加者のなかには当庁OB2名も駆けつけて頂き、30年前の当センター設置に大変ご尽力された大先輩の方々には当時の思い出話に花が咲



「30周年記念行事PT」 立上げ



名古屋商工会議所若鯨会への記念講話



ラジオ工作教室



海上保安業務等の個別説明会



ラジオ収録



ラジオパーソナリティーとの記念撮影



名古屋市立野跡小学校 6年生による  
施設見学



燈光会、海上保安協会等による施設見学

き、久し振りの再会で旧交を温めていました。  
※各種行事の詳細は、次頁の二次元コードからご覧ください。



6月記念講話



7月ラジオ工作教室



8月高校模擬講座



8月新人管制官取材



10月ラジオ出演



11月施設見学(野跡小学校)



11月施設見学(燈光会等)

## 6おわりに

名古屋港海上交通センターでは、運用開始30周年を機に「基本の徹底、安全最優先の徹底」と「良好な職場環境の醸成」を重点的に取り組んでいます。

この歴史を次につなぐ誇れる年としよう!!との意気込みの下、関係機関との連携強化や地域貢献、人材確保や人材育成を図っております。

引き続きまして皆様とともに、名古屋港の船舶交通の安全確保に努めて参ります。

## 【参考文献】

海上保安大学校 野間 清隆教授(2017)  
「名古屋港の発展と管制業務の変遷」

## 【お知らせ】

海の管制官ポータル  
ルサイトはコチラ

# 海の 管制官





運用管制官作成のポスター  
写真、図：海上保安庁提供



このロゴマークは、令和6年7月15日に  
当センター運用開始30周年を迎えるに際  
して、令和4年12月に制定したものです。

# 灯台記念日関連行事

## 灯台記念日特別企画展

@札幌市青少年科学館

第一管区海上保安本部交通部企画課

第一管区海上保安本部及び小樽海上保安部は、令和6年10月26日、27日の2日間、北海道の皆様へ灯台の役割や重要性等を知っていただくため、初めて、「札幌市青少年科学館」において「灯台記念日特別企画展」を開催しました。

本企画展では、北海道内の主な灯台や歴史等のパネルをはじめ、灯台用機器（5等レンズ、LED灯器、太陽電池パネル、



企画展ポスター



往年のパネル達



5等レンズがお出迎え



航路標識用機器の展示

ガス灯器)に加え、児童が楽しむことが出来る企画として「オリジナル灯台の作成」、北海道の「燈の守り人」の紹介等の趣向を凝らした企画により来館者をお出迎えしました。それぞれの企画内容については、次とおりです。



## 祝 灯台記念日



オリジナル灯台を作成中…



完成 !!



完成 !!



完成 !!

○ オリジナル灯台の作成 !!  
子ども達による個性豊かな灯台が完成 !!  
これまでの灯台記念日は、灯台パネルや機器の展示等、マニアックな展示物が多かったので、本企画展は、「子ども達にも楽しんで、灯台を知って欲しい!」との思いから、誰でも簡単に作れる灯台のワークショップを設置しました。  
主な材料は、カップケーキカップ（灯ろう部分）、プラコップ（灯塔部分）、ミニLED電球（光源）、マスキングテープ・カラフルペン（装飾）等になり、すべてネットショップや100円均一ショップで揃

えることができると、総工費は1基あたり1000円ちょつとの経済的な灯台となっています。  
想いたい自分だけのオリジナル灯台を作った子ども達の満足気な表情を見ると、本企画展の準備に費やした労力も吹き飛びました。  
完成した灯台は、200を超える数となり、撮影させてもらった灯台は、第一管区海上保安本部のホームページに掲載していますので、皆様も是非ご覧ください。

第一管区海上保安本部  
オリジナル灯台掲載サイトへ



○ 色々な物をかき集めました!!

海の無い札幌市の方に興味を持ってもらうため、思いつく限りの展示物をかき集めて、バラエティーパツクのような企画展に仕上げました。

例えば、当管区の企画調整官がコツコツ作成している「灯台ONEタップビュー」を大きな画面やタブレットを使用して会場で体験できるブースの設置や、ガチャガチャを用いた灯台缶バッジ、うみがめマリンの大冒険（絵本）、燈の守り人キーホルダー等の景品配布に加え、小樽海上保安部長（当時）が製作された日和山灯台の新・旧ジオラマの展示、さらには、海と灯



灯台ONEタップビュー



精巧な日和山灯台ジオラマ



大人気なガチャガチャ



石狩灯台お兄さん

台サミット2024デビューを果たした「赤白つけようぜ!」でお馴染みの石狩灯台お兄さん等身大スクリーンも借用し、多くの来館者に満足いただけるよう努めました。

○ 北海道内の「燈の守り人」、全員集合!!

〜新キャラクターのお披露目展示〜

北海道内の「燈の守り人」は、鴛泊灯台、鷗島灯台、能取岬灯台、葛登支岬灯台、日和山灯台、稚内灯台の6灯台が擬人化されており、これらの説明パネルや

灯台ONEタップビュー(サイトへ)



## 祝 灯台記念日



「燈の守り人」をご紹介します



科学館職員にも好評



限定缶バッジのデザイン

援を賜った公益社団法人 燈光会様、会場をご提供いただいた札幌市青少年科学館様、ほか準備にあたりご協力をいただいた関係者の皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。

※燈の守り人…  
「燈の守り人」は、株式会社ワールドエッグスが、「燈の守り人」製作委員会を組成して、「海と日  
タペストリーの展示による紹介に加え、本企画展では、10月21日にお披露目されたばかりの神威岬灯台の擬人化キャラクターの等身大パネルの設置や、この日のために特別編集された動画の放映（神威岬灯台の声優様によるカッコいいセリフも放映）、北海道の6灯台+神威岬灯台が集合した記念デザイン限定缶バッジの配布により会場に華を添え、来場者の中には「燈の守り人」目当てで道外からいらした方もおりました。

本プロジェクト」と連携し、日本全国の海岸線に配置されている実在の灯台を擬人化するプロジェクトです。

本企画展の開催期間2日間で、約3,700人が札幌市青少年科学館に来館しており、多くの方に航路標識業務の周知活動ができました。

今後も、本企画展のように灯台そのものに光が当たるようなイベントを企画し、さらに多くの方が灯台に興味を持っていただける取組みを実施していきたいと考えています。

未筆ではございますが、本企画展開催にあたり、後



展示パネル一例

156周年灯台記念日特別展開催  
～期間中1万5,400人が来館～  
第二管区海上保安本部交通部企画課  
宮城海上保安部交通部

第二管区海上保安本部及び宮城海上保安部は、11月1日から11月4日までの間、宮城県仙台市に所在する仙台うみの杜水族館において、「156周年灯台記念日特別展」を開催しました。

仙台うみの杜水族館でのイベントはコロナ禍前の令



和2年度以降3回目の開催となり、灯台の歴史、役割、東北各地の著名な灯台や本年60周年を迎えた花淵灯台（宮城県七ヶ浜町）などをパネル等で紹介したほか、LED灯器の展示や東北各地の著名な灯台10基の灯台缶バッジを配布しました。

また、本年度は新たに灯台輪投げ、灯台顔はめパネ

ルも設置しました。

期間中は職員を配置し、うみまるとの記念撮影や制服試着のコーナーを設けたほか、当庁パンフレットを配布のうえ、当庁に興味を示す方を中心に、海上保安

## 祝 灯台記念日



業務の紹介や人材確保活動を行いました。

その結果、多くの来館者が当庁のイベントに足を止め、航路標識が地域の安全に大きく貢献していることを理解していただくとともに、特に子供達には、灯台缶バッチガチャを通して、灯台への関心や親しみを抱いていただけたものと思います。

二管区では、今後も灯台記念日行事など様々なイベントを通じて、灯台をはじめ、海上保安業務により一層関心を持つて貰えるよう努めていきます。



写真1 榎野埼灯台

当初、地元の串本古座高等学校のCGS (Community general support: 地域包括支援) 部(航路標識協力団体)とコラボして開催する予定でしたが、イベントの前日に16日の天気予報をみてみる

6月10日に点灯しています。

灯台記念日(11月1日)の関連行事として、令和6年11月16日(土)、和歌山県の串本町にある榎野埼灯台の一般公開を実施しました。

榎野埼灯台は、改税約書(江戸条約)により建設が決まった8灯台の1つで、日本最初の回転式灯台、日本最初の石造り灯台として、明治3年(1870年)

### 榎野埼灯台一般公開

田辺海上保安部



写真2 灯台参観記念証 表

前中くらいは雨がも  
つて欲しいと思つて  
いたのですが、なん  
と朝から大雨。檜野  
埼灯台へ向かう車内  
では、「こんな雨や  
つたら参観者15人來  
たらいい方ちいま  
すか」「前入りして  
いる方くらいですか



写真3 裏

はコラボ開催をした  
い!!!) なんとか午  
前中くらいは雨がも  
つて欲しいと思つて  
いたのですが、なん  
と朝から大雨。檜野  
埼灯台へ向かう車内  
では、「こんな雨や  
つたら参観者15人來  
たらいい方ちいま  
すか」「前入りして  
いる方くらいですか

と午後から雨予報。学校側は生徒の安全管理の面から  
取り止めの判断となりました。  
一方、「午前中はなんとかもちそうかも(小雨)」と

ね」等と話しながら1時間半かけて檜野埼灯台に到着  
し、イベントの準備をしました。

すると、1時間も経過しないうちに、参観者15人を  
達成。15時までやってみると、76人の方が来て下さり  
ました。地元の方だけではなく、福岡、長野、広島か  
ら、HPで開催を知り、このイベントのためだけに來  
て下さった方もいました。(前日に電話で開催するか  
どうかの問い合わせあり。)中でも福岡在住の灯台愛  
好家の方は、小一時間灯台内部を見学し、海上保安官  
と熱い灯台トークを繰り広げていました。(全国の灯  
台を回っているので非常に詳しいです。)

イベント当日は雨(時々本降り)で風は強く、かな  
り寒い1日となりましたが、たくさんの方が檜野埼灯  
台へ来て下さり、灯台内部を見て嬉しそうにしている  
姿を見ていると、開催して良かったと感じました。

参観者には、燈光会から後援して頂いて作成した「檜  
野埼灯台参観記念証」を配布しました。参観証を受け  
取った参観者は、「こんなもらえるんですか」「今日  
しか貰えない特別なものですよね」「ありがとうございます  
です」と言つて、とても喜んでる様子で、大好評  
でした!燈光会をはじめ、管区本部及び関係者の皆様  
のご協力で感謝いたします。ありがとうございました。

## 祝 灯台記念日

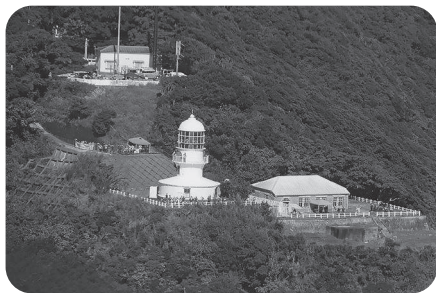


写真1 室戸岬灯台まつりの様子



写真2 室戸市長と高知保安部長



写真3 室戸高校吹奏楽部



写真4 餅まき

### 「第45回室戸岬灯台まつり」を開催

高知海上保安部

令和6年11月3日(日)、高知海上保安部は室戸市観光協会主催の「室戸岬灯台まつり」の開催に合わせ、室戸岬灯台を一般公開しました。

室戸岬灯台まつりは例年灯台記念日のこの時期に開催され、今年は2日に夜間一般公開、こども灯台守の任命やこども灯台守による「点灯式」を実施する予定

でしたが、準備も空しく荒天のため3日の一般公開のみとなりました。

会場は灯台まつりのメインとなる室戸岬灯台のほか室戸市管理の旧退息所(旧宿舎)、そして隣の最御崎寺ほつみさきじとなります。最御崎寺では普段は見られない宝物殿が公開されました。

3日は一般公開に先立ち、旧退息所にて室戸岬灯台まつりの開会セレモニーが行われたほか、軽食や「燈の守り人」オリジナルグッズの販売といったブースが出店、バルーンパフォーマンスといった催し物が繰り

広げられました。

開会セレモニーは午前10時に始まり、主催の室戸市観光協会会長の開会挨拶、高知海上保安部長、室戸市長による来賓挨拶と続き、地元の高知県立室戸高校の吹奏楽部の学生による演奏が行われました。

その後、昔からの灯台まつり恒例?の「餅まき」を行い、来場者は我先にとばらまかれた餅を拾っていました。

セレモニー後は、室戸岬灯台一般公開が始まり、来場者には125年もの永きにわたり現存している鉄造



写真5 一般公開の様子



写真6 海保ブースの様子



写真7 当庁航空機の展示飛行

灯台の内外や日本最大級で直径2.6メートルもある第一等フレネルレンズ、水面上から150メートルに及ぶ踊り場からの素晴らしい眺望を堪能していただいたほか、灯台内部においては、室戸岬灯台で使用されているフレネルレンズの一部、今は役目を終えた第五等レンズ・300ミリメートル灯ろう・200ミリメートル灯具・航路標識用電球等の展示、全国の灯台写真パネル、高知県の代表的な灯台である室戸岬灯台・高知灯台・足摺岬灯台のペーパークラフトの完成品の展示や配布を行い、航路標識について少しだけ触れて

いただきました。

灯ろう内部では日本最大級のフレネルレンズを見てその大きさに驚く来場者が多数いました。

展望台スペースに設置した海保ブースでは、好みの制服を試着し灯台をバックに記念撮影や子供たちにスーパースーツを体験して



ヤレンジしてもらったり海上保安グッズを選んでもらうなど思い思いに楽しんで頂きました。また、海上保安庁のパンフレット配布などを行い、海上保安庁のPRと学生募集に力を入れました。

室戸市観光協会等のブースでは、焼き鳥やおでんやコッペパンサンド等の軽食コーナーがありいずれも盛況でした。

また、午後には関西空港海上保安航空基地のMA953が飛行していただくことになり、来場者にサブライズで展示飛行があるとアナウンスすると歓声があがるとともに、航空機が飛来した時には更なる歓声があがり来場者は勿論ですが当庁職員も大きく手を振って喜んで盛り上がりました。

今年も、2日の夜間の一般公開の中止や3日は午前10時30分頃から午後2時までの短時間の一般公開にも関わらず、ひっきりなしに来場者が訪れ総勢260名となり盛況のうちに終了した室戸岬灯台まつりとなりました。

本来の役割である航路標識の機能だけでなく、地域のシンボルとして観光資源として、航路標識協力団体である室戸市観光協会と共に室戸岬灯台を大切に保守していきたいと気持ちを新たにしました。

## 灯台記念日関連イベント「灯台パネル展」

仙崎海上保安部交通課 後藤 光稀

皆さん、山口県の長門市という場所をご存じでしょうか。山口県北部に位置しており、フグや捕鯨で有名な下関市のお隣の市となっております。長門市の有名なものというと、焼き鳥・かまぼこ・道の駅・仙崎海上保安部：だったりとたくさんものがあります。その中でも私が最もおすすめするのは焼き鳥です。長門の街を歩けば至る所に焼き鳥屋が待ち構えており、今年も焼き鳥祭りが行われるほど有名なのです。ちなみに人口に対する焼き鳥屋の割合は日本一らしいです（マッコの知らない世界談）。是非皆さん一度は長門市まで足を運んで焼き鳥を食べにきてみてはいかがでしょうか？

話は大きく変わりますが、毎年11月1日といえば灯台記念日。毎年海上保安庁の多くの部署ではこの灯台記念日に合わせてイベントを開催しています。しかし、灯台記念日は、私が海上保安庁に入庁したため当たり前のように知っていることですが、多くの人は灯台記念日という日を知らないと思います。この日を多くの

方に知っていただくため、航路標識について興味や関心を持っていただけるようなイベント作りをしたいと思いました。

イベントを行うにあたり、まずは開催場所にこだわりました。長門市は人口が約3万人とあまり大きくはありません。しかし、中国・九州・沖縄エリアでNo.1となった道の駅「センザキツチン」が長門市にはあり、他県からも多くのお客さんで賑わっているため、センザキツチンと隣接する青海島観光汽船でイベントを開催することとしました。

設営では、近隣の有名な灯台で擬人化イラストされた『角島灯台』『水ノ子島灯台』『伊王島灯台』のパネルとポスター、海上保安庁の制服の試着・展示をお客さんの目のつく場所に出しイベントを開催していることを強調するようにしました。その他にもLED灯器や今



写真1 制服試着

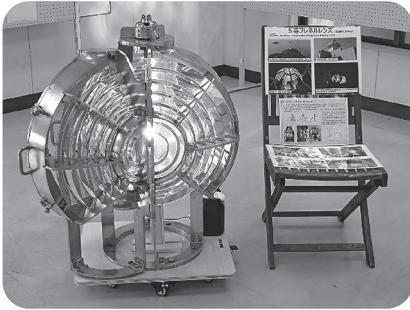


写真2 5等フレネルレンズ



写真3 ドローン映像及び写真展示

年の3月まで仙崎管内の灯台で使用されていた5等フレネルレンズを次長自らが磨き上げ展示準備を行い、開催場所内には全面に全国の有名な灯台、仙崎海上保安部が管理する灯台のドローン空撮写真展示や大型テレビモニターで灯台のドローン空撮動画を上映するなど地元の方もそうでない方も楽しめるようにするか、燈光会のご協力を得て購入した缶マグネットを活用して作成体験してもらうなど、来場者の皆さんが楽しめるものになりました。

イベント当日を迎えると、朝から空一面どんよりとした雲で覆われていて雨も降ったり止んだりの繰り返し



写真4 マグネット作成体験



写真5 冊子等配布及び缶バッジ作成コーナー

しました。そのせいなのか開催場所周辺は、いつもの日曜日のような活気のあるあふれた雰囲気はありませんでした。少し不安な状態での開始となりましたが、パネルや制服に惹かれて来場者が少しずつ増えだしました。私達職員もその波に乗り、施設外に出て呼び込みを開始すると、みるみるうちに来場者で溢れていきました。

来場者の方たちとお話をする、灯台のことを全く知らなかった人や全国の参観灯台を回っている途中の人、インターネットやSNSでイベント周知を見て訪れてくれた人、灯台レンズマニアの人など色々な方の

話を聞くことができました。なかには灯台の知識が豊富で、私に来場者の方に灯台にまつわる話について教えていただくといった場面もありました。

子供たちは、自分よりも大きなレンズや灯器に夢中になっていて「これなに？何に使うの？」と興味深々な様子が見られました。また職員達で夜な夜な製作した缶マグネットも全て配布し、缶マグネットの作成体験も大好評でした。

現場配属となって初めての灯台記念日イベントを無事成功で終わることができてほっとしております。来年は、より多くの方に来場していただいて、航路標識についてもっと知っていただけるように努力していきたいと思います。その際、来場者に教えていただくことのないように私自身も航路標識についての知識を増やしてイベントに臨むことができるよう勉強をしておきます。

「国境の海を照らす光」

（156周年灯台記念日企画展）

対馬海上保安部交通課

対馬海上保安部交通課は10月25日（金）から11月1日（金）までの間、対馬市交流センターにおいて、「国境の海を照らす光」と題し、「156周年灯台記念日企画展」を開催しました。

この企画展は、対馬の発展に寄与した「耶良埼灯台」が本年6月12日で100周年を迎えたことから、対馬



写真1 レンズ説明状況



写真2 絵画コンテスト展示風景



写真3 係による説明会

市民並びに観光で対馬を訪れた方々に対して、対馬における灯台の歴史と役割等を知っていただくことを目的として開催したもので、「耶良埼灯台100年のあゆみ」、「上県灯台で使用していたフレネルレンズ」、「主要灯台の写真パネル」及び「対馬市内小中学生が描いた灯台絵画」（燈光会「灯台絵画コンテスト2024」応募作品）等の展示を行いました。

展示中にも続々と地元の方が来訪され、「これ港の入り口にある灯台ですね！」や「この映画（喜びも…）見ました！」などのコメントがあり、「灯台が認識されているんだ」と改めて実感することができました。

また、10月29日

（火）は対馬市図書館（交流センター内に併設）に市内小学生が見学に訪れるという話を聞きつけたことから、急遽、安全対策係による「灯台の役割」をテーマにした説明会を実施しました。

海に囲まれた対馬で育った小学生たちですが、ほとんどの生徒が灯台への馴染みはなく、一様に「初めて知りましたー！」の声があがり、大変嬉しく思いました。

本企画展の開催期間中に約1,549名の来訪者がありました。が、航路標識の重要性のほか、海上保安業務を広く周知できたものと思われま。

## 恋する灯台「薩摩長崎鼻灯台」を一般公開

鹿児島海上保安部交通課

鹿児島海上保安部は、11月10日（日）に薩摩長崎鼻灯台の一般公開を行いました。

薩摩長崎鼻灯台は、「薩摩富士」と呼ばれる開聞岳を望む風光明媚な薩摩半島最南端の長崎鼻に位置し、大隅半島と薩摩半島に囲まれた鹿児島湾（錦江湾）に出入りする船舶や東シナ海を航行する船舶の道しるべとして重要な役割を果たしており、平成30年6月には「恋する灯台」として認定されています。

また、長崎鼻は浦島太郎が竜宮へ旅立った場所と言われ、「竜宮岬」との別名を持ち、岬には乙姫

を祀った竜宮神社があり、多くの観光客が訪れる場所となっています。

### 【薩摩長崎鼻灯台要目等】

所在地：鹿児島県指宿市（長崎鼻）

構造：造：白色塔形（コンクリート造）

灯台の高さ：10.4メートル

平均水面上から灯火までの高さ：20.8メートル

灯質：群せん白光 毎8秒に2せん光

光達距離：12海里（約22キロメートル）

初点灯：昭和32年12月20日

灯器：高光度LED灯器





写真1 開聞岳をバックに記念撮影する来訪者



写真2 大人気のうみまる



写真3 多くの来訪者が訪れた薩摩長崎鼻灯台



写真4 缶バッジも大盛況



写真5 薩摩長崎鼻灯台



写真6 海保ブース

今回の一般公開は、薩摩長崎鼻灯台が所在する指宿市主催のイベントにあわせ、当初11月3日(日・祝)に開催予定でしたが、台風の影響で延期となり、11月10日の開催

当日も生憎の曇り空となりました。

しかしながら、開催時刻の午前10時を待たず、準備中の午前8時過ぎから、チラホラと来訪者の姿が見られ、開催時刻になると制服試着コーナーや缶バッジ配布コーナーも多くの人でいっぱいとなりました。

途中、雨に見舞われることもありましたが、終わってみれば1,097名もの来訪者があり大盛況のイベントとなりました。

イベントを主催した指宿市も多くの来訪者に大喜びで、薩摩長崎鼻灯台を観光資源のひとつとして今後も同様のイベントを開催していきたいとの発言もありました。

鹿児島海上保安部では、今後も地域に密着した実りある活動を展開していきます。

## 台風で中止!?笠利埼灯台一般公開

奄美海上保安部

今年も11月3日(日)に奄美群島最北端にある笠利埼灯台を公開することになりました。

新聞やホームページ、ポスター等で公開を周知し、

展示物や来場者へのプレゼント等の準備を着々と進め、残すは公開数日前の灯台での事前準備と公開当日を迎えるのみとなりました。

しかし、天候が悪く中々事前準備が出来ない状況。原因は、遙か遠くを進む大型の台風21号の影響。数日間雨が続き、ようやく晴れ間が見られた公開前日、灯台に向かったものの、灯室扉を開ける事が出来ない程の強風が吹き荒れ、準備は進まず、公開当日の明日も天気予報によつては風が残る予報。安全のために中止も視野に入れ、「公開中止」の看板をため息つきながら車に積み込みました。

いよいよ公開当日、公開可否を決定すべく早朝に職員が灯台に集結。風は幾分残っているものの、予報を見ると公開開始時間には風も収まる見込み。「出来るね、やろう!」の交通課長の一声で、予定通り公開を実施出来ることとなりました。

しかし、前日までに終わらせているはずの準備が強風の影響で一部しか出来ておらず、開始時刻に間に合うか不安はありましたが、駆け付けてくれた管理課・警備救難課職員の応援もあり、公開開始20分前によく全ての準備を整えることが出来ました。

午前10時、予定どおり公開開始。11月にも関わらず

既に25度を超える奄美。灯台登り口に設けた受付を済ませた来場者は強い日差しの中、灯台までの山登りを開始。一気に高さ50メートルを上がる道のりに、ようやく灯台に着いた来場者は、ゼゼエ言いながらも「風が気持ち良い！」と、我々が止んで欲しいと願っていた風を有難く感じている模様でした。

登り疲れて休憩されている来場者に話を伺うと「毎年来ようとしていたけど、いつも気づいた時には終わっていて、今年やっと来られた。」今回で3回目です！  
 天気が良くなってよかった！」「こんなに景色が良かったなんて、地元なのに知らなかった。」「地球が丸いんだって分かります。」等、皆さん灯台からの景色に魅了されている模様でしたが、「灯台の上から見る景色はもつと最高ですよ。」と声を掛け、順次灯台上部へ案内しました。

笠利埼灯台は、らせん階段で登る灯台ではあるものの、灯室に上がる最後の層は3メートルの梯子が待ち構えています。補助の手すりや安全ネットの設置に加え、灯台に慣れている職員を梯子上下に配置し、万全の態勢でお迎えますが、小さな子供やご高齢の方は梯子を前に不安そうな顔。しかし、せっかくの絶景を是非見てもらいたいことから、不安な方へは職員がし

っかりサポートして昇降させ、来場者全員（残念ながら、どうしても怖いという幼い子とそのお母さんのお二人を除く）が上部踊場まで到達出来、目の前に広がる青い空、270度に広がる青い海、背後には自然豊かな緑の、年に1回しか見られない絶景に来場者は思い思いに日常とは違う時間を過ごしていました。

また、鹿児島航空基地協力による所属航空機ローパス時は、思いがけないサプライズに来場者から大きな歓声が上がると共に、航空機に向かって手を振る方や、普段滅多に見ることが出来ない機体に、スマートフォンを手に誰よりも映える写真を撮ろうと、航空機が通過するたびに位置を変え、背景を変え撮影する方等、皆が感激、興奮していました。

灯台踊場からの絶景を楽しんだ来場者は、「すごく綺麗だった！ありがとう！」と皆大満足された模様で、梯子を自分で昇り降りする事が出来た幼い子供は「全然怖くなかった！」「飛行機が近くを飛んでくれた！」「ご高齢の方は「登れてよかった！これ以上歳を取るともう登れんから今年見られてよかった！」「サポートしてくれてありがとう！」等と皆一緒に嬉しそうな顔をしていました。「いくらでもサポートしますので、また来年もお待ちしていますよ」と声を掛けお見送り



## 祝 灯台記念日

しました。  
今年の来場者は、当日別のイベントや小学校等の運動会が重なったせいなのか、初めて来場者300人を超えた昨年の約半分ではありましたが、昨年と違い、来場された方々は展示品をひとつひとつ立ち止まって鑑賞したり、灯台踊場で一時間以上景色を眺めたり、ペーパークラフトの作り方を詳しく質問したり、試着した制服で何度も写真を撮影したりと、ゆっくりと公開を楽しんでいるように感じ、台風に悩まされた荒ただしい事前準備があったものの、スロウライフな奄美らしい良いイベントになったと感じました。

本イベントに関し、ご支援いただきました(公社)燈光会及び(公財)海上保安協会奄美支部に深く感謝いたします。



写真1 航空機ローパス



写真2 展示及び来場者状況

第四管区海上保安本部では、灯台記念日関連イベントとして11月2日から4日の間、博物館明治村において、明治初期から海を照らした「灯台」と船を安全に導いた「海図」の歴史を紹介する企画展示をメインとしたイベントを開催しました。

博物館明治村は、明治建築を保存展示する野外博物館として、愛知県犬山市郊外、入鹿池に面した美しい風景の丘陵地に位置し、ヴェルニーにより建設された旧品川燈台や菅島灯台附属官舎のほか、航路標識に関連する施設等が保存展示されています。

菅島灯台附属官舎では『明治の燈台』と題して、ヴェルニーやプラントンによる灯台に関する資料のほか、神島灯台（三重県鳥羽市）で使われていた4等フレネルレンズ等が常設展示されており、このお手伝いしたことが縁となり、平成16年から継続して灯台記念日のイベントに協力をいただいております。

フォトスタンプラリー×ガチャ

「半ば強制的!?!」な集客  
博物館明治村とコラボイベント開催

第四管区海上保安本部交通部企画課



海上保安庁特別企画展示コーナー（北里研究所本館・医学館2階）



フォトスタンプラリーのポスター



景品一覧

（燈台会及び海上保安協会に作成していただきました）

灯台の立体的なアクリルスタンドは女性に人気でした！  
参観灯台それぞれにあったら皆さん記念に購入するかも？  
詳細は四管区交通部企画課まで！



## 祝 灯台記念日

●品川燈台の一般公開  
▽灯台の一般公開  
とともに、近辺で学  
生募集活動を行いま

提示とともに、海保  
SNSのフォローに  
ついてもガチャを回  
す条件にしたので、  
フォローが一気に  
増えたかと思いま  
す。

●フォトスタンプラリー  
今年度は、3日間で以下のイベントを行いました。

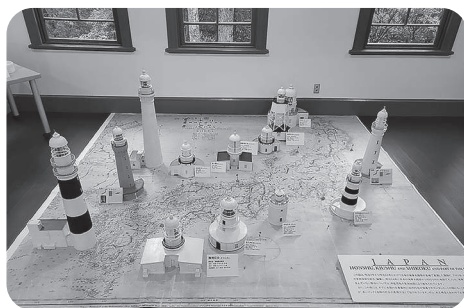
▽同村は東京ドーム21個分(約100万平方メートル!!)の広さを誇るため、来場者が分散してしまうことから、企画展示へ人を集めることが難しい状況でした。これを解消するため、品川燈台、菅島燈台附属官舎、台場鼻潮流信号機、小那沙美島燈台の4箇所の写真企画展示会場で提示することで、限定記念品が当たるフォトスタンプラリーを企画したところ、約600名の方々にチャレンジしていただきました。写真の



手前がフォトスタンプラリーの景品交換所(半ば強制的に展示をみることになります…)



学生募集の状況



目玉展示

した。ここでも、フォトスタンプラリーの紹介を精力に行ったので、海保の魅力とガチャの魅力!により、この中から将来の海上保安官が誕生するかもしれません。

### ●企画展示

▽冒頭でも少し触れましたが、明治初期から海を照らした「灯台」と船を安全に導いた「海図」の歴史を紹介する展示を行いました。今回の目玉は、拡大印刷した明治期の海図の上に現存する文化的価値が認められたAランク灯台の一部を配置した展示です。



航路標識と測量船の変遷を床に展示



【余談】3連休中日の帰宅時の状況です。路線バス4台目でようやく乗車、約2時間立ちっぱなしでした…。

また、企画展示室前の廊下には、明治初期から現代までの測量船と航路標識の変遷を記した全長6メートルに及ぶ年表を敷き、明治の香り漂う中、150年の歴史と技術進歩を確認しながら一歩一歩現代に近づいていき、最終的に展示室に至るといったタイムトラベル的な演出も取り入れました。

● 海洋少年団とのコラボ

▽中日海洋少年団に手旗信号の実演を行っていただきました。(中央をうーみんが陣取っています)

3日間で、フォトスタンプラリーに約600名の方が参加し、企画展示には約1,800名の方の来場者があり、総入村者数が約9,000名でしたので、入村者の5名に1名は企画展示を楽しんでいただいたこととなります。準備が実を結んだように感じられ、非常に達成感のあるイベントとなりました。



写真1 菜の花と春の灯台



写真2 休校している分校の校門



写真3 てるてる坊主

1913（大正2）年に松山市の沖にある釣島（つるしま）に小学校の分校がスタートしました。当時の児童数は17名でした。分校の校歌の歌詞には「灯台まわる光の中に ほくもわたしも明るく学ぶ 新たな希望へほほえみあって 明日を照らす釣島分校」とあります。2012（平成24）年3月から休校しています。本校の松山市立西居島小中学校では登山遠足で興

居島の小富士山から西の方角に向かって、分校の校歌を現在も斉唱しているそうです。歌声が分校を照らしています。

時間は誰にでも平等なのだろう。でも、感じられる時間の長さは一定じゃない。ボクにとっては濃密でコレからも忘れない・忘れられない2時間35分とそのま



# 釣島灯台から2時間35分の生放送 心を照らす『灯台ラジオ』

松山海上保安部次長

児島 誠二郎



わりの時間を簡単に書きとめさせていただきます。

10月も中旬になると毎日まいにち登録した地点の降水量や風の向きと強さを、一日に何度も何度もボクは確認します。確認の回数を重ねることで荒天が好転すると信じているかのようです。また、てるてる坊主もつくりました。ココロを込めた儀式が自然に対して効果があったのだと今は信じています。

11月1日の午後3時40分になり灯台ラジオの生放送は、なんとかかんとか釣島の現場から、やっところさつとこ始まりました。オープニングは松山市の南海放送のスタジオからアナウンサ



写真4 杉作J太郎さん



写真5 リリー・フランキーさん

ーが届ける気象情報です。「前線や低気圧の影響が強まってきています。大気の状態が不安定です。大雨や土砂災害にも注意しましょう。」灯台ラジオスタート！なにかが起こりそうですよ。

パーソナリティの杉作J太郎さんは「中学生くらいまでだったら泣いてしまいますよ。」と現場の雨模様や島の小高い場所を吹き抜ける風の状態を表現し、リリー・フランキーさんは「海を渡るのはやめようって言ったじゃん。島に到着したのは良いけど帰れないんじゃないの。」と、のっけから屈託のない開放的なトークが交わされています。

安心してください。

安全を何よりも優先します。

帰れないときは島に泊まればいいんです。

松山海上保安部が管理する釣島灯台の魅力や歴史などを、杉作J太郎とリリー・フランキーが語る生放送の「灯台ラジオ」は日本財団の「海と日本プロジェクト」の一環として実施されました。南海放送株式会社を代表とする釣島灯台ラジオ実現コンソーシアムが事業を企画し、コンペティションで選ばれたものです。前年の釣島灯台・旧官舎150周年記念シンポジウム

をきっかけにして、レジェンドDJの杉作J太郎さんが「暗闇をいく船に光を届ける灯台と人の心にあかりを灯すラジオは似ているところがありますね。ぜひ釣島灯台でラジオをやってみたいです。」と、おっしゃったことを、このコンソーシアムが一年越しに実現させたものです。J太郎さんの言葉、灯台界限への閃きです。

コンペを勝ち抜いた企画への松山海上保安部に対する正式な協力依頼は10月10日でした。杉作J太郎さんやリリー・フランキーさん等が、ラジオ放送前に灯台内部を見学すること及び見学時の説明が当初の依頼事項でした。

そうなんです。当初は放送前に御役御免だったはずなのに、文書による正式な依頼事項には、番組への出演が増えていました。役割が変化した灯台の存在意義や灯台が持つ多様な価値を共に語りたいと情熱の真っ赤なあかりがボクの心に灯ります。

釣島は松山市の西、約5キロメートルの海上に浮かぶタマゴのような形をした島です。いよかんや紅マドンナなどが栽培され収穫時期には、柑橘のかほりと鮮やかな黄色やだいたい色で彩られます。無人島だった

釣島に江戸時代末期の1863（文久3）年に、興居島から7名が移住してきました。1871（明治4）年には釣島灯台と官舎の工事がスタートしています。初点は1873（明治6）年です。工事中は一日当たり300とか400名の人働いていたそうです。現在は島に住んでいるのは20とちよつとかなと、10月7日の事前の下見の際に島の人から聞きました。

「釣島には灯台しかないけど、灯台を訪ねて全国から人がきよるんよ。灯台にきとなるんかね。うちらあには灯台なんか当たり前のもんで、珍らしゅうもないの。この前は青森からわざわざ来とつてじやったよ。」と、複数の方から笑顔で教えてもらえます。釣島の時間は灯台と共にあるようだと感じます。

「あの頃は、灯台官舎に住んどった友達と遊びよつた。テレビがあつたんは、あそこだけじゃつたんよ。みんなで見せてもらったんよ。」と、灯台職員の家族との交流に関する思い出も聴かせてもらえます。友達だった灯台職員の子供も通っていた分校は1950（昭和25）年には最多の37名が在学しており、運動会や学芸会などは島の人たち総出で催され、みんなの大きな楽しみだったそうです。

151年前から小高い丘の上にそびえる灯台が眺め

ていた風景が目には浮かびます。船に向けてだけじゃなくて島の人や島の日常も釣島灯台は照らし続けているのではないかと感じます。なお、いわゆる灯台守は1963（昭和38）年にいなくなり、釣島灯台は無人性化されました。

生放送の前日の夜、松山に前乗りしたリリー・フランキーさんが南海放送のラジオ番組に友情出演しています。海を渡ることの是非や、海を渡れないときはスタジオから放送する段取りであること、「ばらし」の判断は早い方がよいことなどの議論がされています。

「灯台ラジオ」のスタッフも放送に登場です。J太郎さんの番組の中で公開打ち合わせの雰囲気です。なお、「ばらし」とは予定されていた内容が実行できない場合、その予定そのものを取り止めることをさす業界用語だそうです。

映画主題歌でもあったTOKYO MOOD PU  
NK Sのストロベリーという曲を口ずさみながら、「ばらし」をつかった例文を考えてみました。

気象海象に対しては、なんの術もない。撮影当日に「ばらす」と費用や時間があったくないし、すべからく前日までには「ばらす」という判断をするべきだ

よ。

気象海象は生放送に適しているとは考えられるものではありませんでした。また釣島港のカーフェリー岸壁が数日前に事故で壊れてしまい、車で運ぶはずだった大量の資機材は人力で小高い丘へと運ばれ、雨中、スタッフ全員で設営されています。

港のフェリー岸壁は破壊され、  
激しい風雨にさらされながら、

島から脱出できないかもしれないと、  
不安を胸にしながら全員が身を寄せ合う、

集落から離れた古い西洋式建築物の中で。

ホラー映画のようなシチュエーションが成立している、はしやぎ過ぎると、

白黒のカメラが灯台を破壊しに来るぞ。

ホッケーのマスクを被ったやつが、

スクリーム（ゴーストフェイス）が、

呪怨の俊雄くんが向こう側の世界から

来るぞおくと、博識が高いラジオパーソナリティのおふたりは、はしやいでいます。逆境の中でも機転を利かせて、キヤッキヤツと楽しんでいる姿にボクのは昂っています。



杉作さんとリリーさん、そしてボクの3人が灯台の前でお話をする予定でしたが、激しい風雨のせいで旧官舎玄関の前に場所を移します。そして、紙の台本が濡れてしまい内容がチェックできないことをいいことに、事も無げに質問事項が変わっているんですけどお。気象海象よりも、番組の進み方がボクにとっては大荒れでして白い頭の中は騒がしくなっています。荒波に、もまれながらディレクターさんを一瞥して助けを求め



写真6 旧官舎の玄関で灯台を確認

るボクの目は、きつと完全に泳いでいます。助けてえ。

潮のながれに逆らってはいけない。

台本によれば、わしのノルマは最初の10分足らずじや。なごうに感じてほんの少しの時間じゃけえ、荒波なんか意に介さず乗り越えよう。焦るなど、自分に言い聞かせます。

すべてを悪く辛く思うのはやめよう逃げだすな。大荒れな時間が大げさなココロをズルズルと引きずりながらも、キチンと時間は過ぎます。

ボクのノルマが果たされたことを告げる「コジマさんありがとうございます。」のレジエンドDJの声に救われました。

やりきった。

ホツとしました。

事前に準備していた資料どもは海の藻屑になったけど、ボクは助かったんだ。

安堵しているボクの鼓膜がすぐに震えています。空気を振動して伝わってくる、その音は鈍を振りおろす音やチェンソーの音などではなくて、いまは聴きなじんだ優しい声です。番組の節目を告げるジングルの直前に聞こえた声は、リリーさんの端的な言葉です。「コジマさん、ちょっとあとで、また。」

この番組という荒波の中で、ボクの漂流はまだまだ続きます。ディレクターの目をボクは視ます。すべてを受け入れる眼差しがボクを強く鋭く照射していきま

す。

ホントウは嬉しい。

ひとりキャツキャツ。  
予定は変わり引き続き放送に関与できる。分かりにくいしそもそも例えとして違うかもしれないけど、手違いで明訓に転校した下カベンの微笑三太郎みたいだなと感じました。脇役だけどヒットを打ってチーム「灯台ラジオ」に貢献したいなあ。

生放送は終始、笑顔にあふれていました。Jさんとリリーさんのフリートークにも松山市教育委員会文化財課の職員の方とボクも参加しました。とにかく楽しい時間でした。

スタッフの方々や関係者のみんなもキャツキャツして、ほほえみと笑い声が旧官舎の中を照らし続けていました。

放送局の技術の方が常に調整している姿や屋外でアンテナを設営している姿、船の係留ロープをさばいている姿、旧官舎内に特設スタジオを組んでいる姿、お

弁当やお菓子・コーヒー等をセッティングしている姿、仮設トイレを掃除している姿などが今でも目に浮かびます。マイクトラブルやほかにも幾つもの困難がありました。

荒天のなか、トラブルも発生したことを受けて「でも却って良かった。努力や頑張りが実感できたよね。まあコレを一般的には強がりといえますけどね」と、



写真7 生放送中の風景

Jさんは番組の中でおっしゃっていました。  
荒天やトイレ問題、忘れもの等にもめげずに生放送をやりきったことで、釣島灯台の魅力や歴史が多くの方に伝わり、釣島灯台だけじゃなくて釣島に興味を抱いた方も増えたはず。そして日常や風景に溶け込み、そこにあるのが当たり前前の全国にある灯台にも関心が高まったと思います。



写真8 灯台ラジオ仲間

番組の最後に、杉作J太郎さんが「ワレワレ、灯台ラジオ仲間」とおっしゃるとりりー・フランキーさんが「灯台のようにいつ来ても逢える。」とつなげておっしゃっていました。聞いてくださった方も含めて関わられたみんなが仲間です。暖かい言葉とほほえみが仲間のひとり一人を照らしています。



写真9 赤と白の光芒



写真10 フェルトのネコさん

放送が終了しました。

151年前から、釣島に存在する普通の風景のひとつである灯台の赤と白の光芒をボクは見えています。

資料やもらいたてのサインが書かれた図書を詰め込んだカバンから、顔を覗かせている母の手作りの羊毛フェルトのぬいぐるみも、雨に反

射した灯台の光芒を眺めています。

プレゼントになるかは分からんけど、わしも頑張ったけえね。実は今日、11月1日は6月に他界したボクの母親の誕生日です。

誰に向けてなのかわかりませんが、光芒が照らす、その先を眺めながらボクはつぶやきました。

「今日は天気が悪いで、よかったねえ」

(J)

### 主催者側の述懐

南海放送株式会社 阿部直美

「暗闇に行く船に光を届ける灯台と、人の心に灯りをともすラジオ。灯台とラジオは似ているところがありますね。ぜひ釣島灯台からラジオ放送をやってみたいです。」

昨年、開催した「釣島灯台・旧官舎150周年記念シンポジウム」でパネリストだった杉作J太郎さんがおっしゃった言葉です。それから一年後、実際に釣島灯台から「灯台ラジオ」を放送することができました。

最初に杉作さんに「釣島灯台から『灯台ラジオ』を放送できることになりました！」とお伝えしたとき、帰ってきた言葉は「釣島灯台から朝焼けが見たい」でした。朝焼け？オールナイト放送？体力的にもムリな気がする（私が）…と焦りましたが、実際は夕暮れの時間、2時間35分の生放送になりました。

2時間35分のラジオ放送のために、今回のスペシャルゲスト・杉作さんのご友人で俳優のリリー・フランキーさんは2泊3日のスケジュールで松山に来てくださいました。お忙しいのに。灯台ラジオの前日の夕方、松山入りしたリリーさんは、空港から南海放送に直行してください、と「杉作J太郎のファン・ナイト」（南海放送ラジオ）にご出演されました。

その中で、「明日は大雨予報ですよ、やる決断、やめる決断、やめる決断の方が大変ですが、決断は早い方がいいですよ」、「この局（南海放送）の方は全く迷いがいいですね、安全のためにもやめた方がよくないですか？」と代替案のスタジオからの放送を何度も進めていました。でも私には笑いのための言葉で、リリーさんもやめる気は全くないように感じていました（リリーさんは本当にやめた方がいいと思われていたのでしょうか…？）

放送当日11月1日（金）、天気はやっぱり大雨でした。風も強かったです。でも天気予報からも、なんとかたどり着け、放送できる気がしていました。というより、行けるところまで行って、ダメならスタジオに帰ろうと思っていました。また、放送の数日前に定期便のフエリーが釣島港の岸壁にぶつかり岸壁が壊れ、たくさんの放送機材を車で運ぶことができなくなっていました。たくさんの放送機材を少数のスタッフで大雨の中、手で運ぶという苦難も乗り越えました。

そして始まった「杉作J太郎とリリー・フランキーの『灯台ラジオ』」。台本はほぼなく、9割9分フリートークでした。番組は爆笑の連続で、終始本当に楽しい時間でした。杉作さんとリリーさんのトークを聞いて「プロってすごい」と本当に思いました。松山海上保安部の児島さん、松山市教育委員会文化財課の岸見さんからは釣島灯台、旧官舎の歴史や特徴、役割などを詳しくお話しいただき、釣島灯台のことを全く知らなかったリスナーの方にも、興味・関心を持っていただけたと思います。

2時間35分の生放送、始まる前は長いなあと思っていましたが、始まってしまえば本当にあつという間でした。番組終盤には終わってしまうことが寂しく感じ

ていました。杉作さんに最初に言われた「朝焼けが見たい」のオールナイト放送も、やってみるとあつという間かもしれない。

灯台について想いを馳せたことがある人は、本当にごく少数だと思います。「灯台ラジオ」を通じて、釣島灯台や釣島、また全国の灯台に興味を持ってくれた人がいたら嬉しいです。

でも本当のところは、「灯台ラジオ」面白かった！と思っただけならそれだけで嬉しいです。「灯台ラジオ」放送にあたりご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



追記：「灯台ラジオ」にご出演いただいた松山海上保安部の児島さんは、その後、杉作J太郎さんとすっかり意気投合され、「杉作J太郎のファンイナイト」（南海放送ラジオ）のレギュラーになられました。1つのプロジェクトが、1つの出合いが、驚きの展開になったこともとても感慨深い出来事でした。



# 156周年灯台記念日祝賀会開催

灯光会事務局

令和6年11月1日(金)、156周年灯台記念日祝賀会を霞山会館「霞山の間」において開催いたしました。

祝賀会は、定刻の18時30分に灯光会渡辺総務部長の司会により始まり、次の式次第に従って進行いたしました。

- 一 開会
- 二 灯光会会長挨拶
- 三 来賓紹介
- 四 灯台絵画コンテスト入賞作品紹介
- 五 美ら海フォトコンテスト2024灯光会会長賞贈呈
- 六 海上保安庁交通部長祝辞・乾杯
- 七 懇談
- 八 「喜びも悲しみも幾歳月」合唱
- 九 灯光会副会長挨拶
- 十 閉会

開会の後、先ず、岩崎貞二灯光会会長が登壇し、冒頭にご参加いただいた方々への謝辞が述べられ、近年、明治期に造られた灯台を中心に、その歴史的価値が評価され、現在全国で15基の灯台等が国の重要文化財に指定されており、その中でも、角島灯台は、明治9年(1876年)設置当時の建物・灯器(レンズ)が現役使用されている貴重な灯台であり、将来、国宝に指定されることも夢ではないと思っております、これらの灯台が持つ価値に社会の関心が集まっていることを踏まえ、灯光会としても、引き続き海上保安庁、地元自治体等の関係機関の皆様と協力、連携して、灯台を盛り上げていきたいとの挨拶がありました。

続いて、来賓紹介として、今回初めてご出席いただきました尻屋埼灯台の地元自治体である青森県東通村の畑中稔朗村長のご出席をご紹介させていただきますとともに、上地克明横須賀市長からいただいた祝電を披露させていただきました。



写真1 燈光会会長挨拶



写真2 灯台絵画コンテスト入賞作品展示



写真3 美ら海フォトコンテスト表彰状贈呈

祝宴の前に、燈光会では、灯台記念日の行事の一環として、海上保安庁のご後援をいただき、小中学生を対象とした灯台絵画コンテストを行っている旨の説明を行うとともに、本年度の「灯台絵画コンテスト2024」において、特に優秀な金賞以上の次の6作品と、犬吠埼灯台と御前埼灯台の150周年を記念した両灯台の特別賞の6作品の計12作品について、会場内で展

示していることをご紹介いたしました。  
また、今年度、第十一管区海上保安本部が主催した「美ら海フォトコンテスト2024」において、燈光会長賞を受賞された植野幸帆様に祝賀会にご出席いただき、岩崎会長から表彰状を贈呈させていただきました。

続いて、石塚智之海上保安庁交通部長からご祝辞と



写真4 交通部長乾杯



写真5 歓談風景



写真6 歌手 田山 ひろしさん

乾杯のご発声をいただきました。

石塚部長からは、燈光会の航路標識事業の周知啓蒙活動に対する感謝の意が述べられるとともに、灯台守の時代から職員の心に代々受け継がれている守灯精神に基づき、航路標識の整備と維持管理を的確に行うことにより、海上交通の安全を守る役割を確実に行うことはもちろん、燈光会をはじめ関係者の皆様と連携して、地域の活性化に一層貢献していくことで、灯台の

魅力をこれまで以上に広く国民の皆様を知って頂けるよう、積極的に発信していく旨のご挨拶があり、また、燈光会が毎年、灯台記念日の行事として実施している灯台絵画コンテストについても触れられ、若い世代に、灯台について関心を持っていただく大変良い機会であるとのことのお言葉をいただき、そして乾杯のご発声をいただきました。これに出席者一同が唱和して、祝宴が始まりました。





写真7 全員で合唱



写真8 燈光会副会長挨拶

会場では、燈光会オリジナルの「日本灯台百景」の映像をBGMとして放映させていただきました。時間の経過とともに出席者の方々の輪があちこちに広がり、思い出話に花を咲かせる姿や、熱心に絵画コンテストの作品をご覧になり、記念写真を撮るなど微笑ましい光景が繰り返り広がっていました。

会場和やかなうちに本祝賀会は終わりに近づき、恒例のエンディングソング「喜びも悲しみも幾年月」の

合唱へと移りました。

正面のスクリーンに、燈光会が参観事業を行っている16か所の「のぼれる灯台」の映像が映し出される中でイントロが流れ、(株)エイフォース・エンタテインメント所属の歌手田山ひろしさんのリードにより歌がスタートしました。1番を田山さんが、2番からは田山さんからご指名を受けた方を含め全員で合唱、終わりは田山さんと全員合唱で灯台記念日らしい締めくくりとなりました。

終わりに、最後の盛り上がりを受け、上野紘燈光会副会長の閉会の挨拶で祝宴は幕を下ろしました。

近年、燈光会会員において、一般会員や賛助会員が増えてきていますが、今回、そうした会員の皆様にも多数ご出席いただき、灯台記念日のすそ野が広がっていることを実感した祝賀会でもありました。

これもひとえに祝賀会の準備段階からご支援・ご協力いただいた海上保安庁の皆様さまのお蔭と感謝しております。ここに誌面をお借りしお礼申し上げます。

# 灯台絵画コンテスト20周年の新たな展開

燈光会事務局

灯台絵画コンテスト2024の受賞作品について、本誌11月号にてご紹介したところですが、全国の小学生を対象として実施している灯台絵画コンテストが平成17年度の開始以来20周年となりました。

この間、平成30年度の灯台150周年を機に、特別賞（国土交通大臣賞）が設けられ、一段のレベルアップが図られた一方で、近年のコロナ禍においては、応募点数が激減し、継続の是非が問われるなど、まさに喜びも悲しみも幾歳月でしたが、後援機関である海上保安庁の多大なるご支援により、これまで1回も休むことなく継続することができました。

この絵画コンテストについては、ご案内のとおり、灯台記念日の行事の一環として始められ、以前は灯台記念日の祝賀会上位受賞者を招いて、表彰式を実施してきましたが、昨今の学校行事の多忙化等の事情により、平日に表彰式を行うことが難しくなり、近年は、

海上保安庁のご協力により、地元で伝達していただく形が主流となっています。

東京での表彰式は無くなりましたが、海上保安本部や部署等において、工夫を凝らした伝達式などを催していただき、受賞者や保護者からお礼や感動の言葉が寄せられるなど、灯台を通しての海上保安業務への周知啓蒙の役割を果たしてきたところです。

こうして多くの人たちに支えられて継続してきた灯台絵画コンテストですが、近年、灯台を活用した地域振興の動きが活発化していることを踏まえ、この仕組みを地域との連携のツールとして、さらに有効活用していくことを目指し、灯台絵画コンテスト20周年と我が国の代表的な灯台である御前埼灯台と犬吠埼灯台が初点灯から150周年を迎えることを記念して、両灯台の地元である御前崎市及び銚子市からもご後援をいただき、両灯台の150周年記念特別賞を設け、拡大版灯台絵画コンテストを実施しました。



御前埼灯台150周年記念特別賞表彰式  
 (「風と灯台フェスティバル」にて)



犬吠埼灯台150周年記念特別賞表彰式  
 (「灯台ワールドサミットin銚子」にて)

特別賞については、両灯台の管理者として第三管区海上保安本部長賞、コンテストの主催者として燈光会長賞に加え、地元自治体から、御前埼灯台については御前崎市長賞、犬吠埼灯台については銚子市長賞を設け、それぞれ表彰者直々に候補作品の中から選定いただき、受賞作品を決定しました。

表彰式として、御前埼灯台特別賞については、令和6年11月10日(日)、御前崎市で開催された「風と灯

台フェスティバル」の行事の一環として、犬吠埼灯台特別賞については、令和6年11月16日(土)、銚子市で開催された「灯台ワールドサミットin銚子」の行事の一環として、受賞者を招いて開催され、いずれもイベントの中心的なプログラムとして注目を集めました。

これまでも一部の海上保安本部や部署において、絵画コンテストを地元との連携に活用する動きがありましたが、地域のシンボルとして親しまれている灯台が節目の年を迎える機会等に、絵画コンテストを通して地域との連携が深まれば、さらに意義のあるイベントになるものと考え、今後も積極的に対応してまいりたいと思います。

ところで、この灯台絵画コンテストの受賞作品ですが、これまで、海上保安庁の庁舎(中央合同庁舎第3号館)1階ロビーにて灯台記念日の前後に短期間、また琴平海洋博物館にて1ヶ月程度展示される以外に一般の方に実物を観てい

ただける機会がなく、素晴らしい作品を眠らせておく状況にありましたが、今般、犬吠埼灯台150周年に合わせて実施した、同灯台敷地内の犬吠埼灯台資料展示館のリニューアルにより、展示館の中2階にギャラリースペースを設け、そこで受賞作品を常設展示することとしました。

犬吠埼灯台は、年間10万人以上の参観者が訪れる人気灯台です。そこで常設展示すれば、多くの参観者にも、館内の多くの灯台展示品に囲まれ、生き生きと誇らしく見えます。さらに、受賞作品を観ることを目的として、新たな参観者にも訪れていただけるのではないかと期待しているところ です。



灯台絵画コンテスト2024受賞作品の展示  
(犬吠埼灯台資料展示館 中2階ギャラリースペース)

## 14年振り管区建設担当技術 打合せ会

令和6年5月管区整備課長等会議  
 で、ある管区の課長から「人材の育成、  
 交流のためにも昔本庁が開催していた  
 技術打合せ会を復活してほしい」と発  
 言がありました。

当時を知る者は、技術打合せ会が管  
 区の垣根を超えた情報交流、技術力の  
 向上に有意義であることを知っていま  
 す。

最近の整備課は、保安学校卒のほか  
 一般技術職高卒採用者や建築士の選考  
 採用者など多様な人材で構成されてい  
 ます。全国の同じような境遇の者を一



質疑応答



資料発表

堂に会し、不安な思いや仲間意識を高  
 めることは必要と思ひ、平成22年以來  
 14年振りに建設担当技術打合せ会を開  
 催することにしました。

開催日は令和6年11月20日からの3  
 日間。本庁含めて19名の担当者が集結  
 しました。

初日は自己紹介を兼ねて参加者がこ  
 れまで経験してきたこと、業務上の問  
 題点や改善に向けた意見発表を行いま  
 した。最初のうちは緊張感がうかがい  
 知れたものの時間がたつと饒舌になり  
 各地方の方言が飛び交い活発な質疑応  
 答も練り広げられました。

二日目は袖ヶ浦浮標基地で実習を行  
 いました。

今年度、本庁では施設の老朽対策と  
 してコンクリートの強度確認に係る調  
 査を行っています。具体的には灯台の  
 整備工事において外装面のタイルを剥  
 すとコンクリートがひび割れたりボロ  
 ボロだったたりして、以降の工事が手間  
 取る場合があります。事前にこの状況

が分かれれば、それに応じた設計が可能となりませんが、そのためにはJIS規定で採取したコアにより圧縮強度試験が必要です。構造体の規模の小さい灯台にはコンクリート損失が大きいので、サイズダウンを図った小径コアによる調査研究を行っているところですが、今回はその一



コア採取



コアサイズの比較



親睦を深めた2日目の昼食



集合写真

環で全員に体験してもらいました。コア採取自体初めての作業なので、最初こそ慎重に遠慮しがちであった参加者でしたが、慣れてくるとさすが建設担当の技術屋集団、チャレンジ精神で満足のコア採取ができました。

三日目は本庁ベテラン技術官による基礎講座。施設点検のポイントや設計波高の算出の仕方など資料を見ただけでは理解が難しいところも分かりやすい解説で理解した模様です。

今回の技術打合せ会は、整備課長の挨拶でもあったとおり、管区を超えた職員相互の交流の活発化、困ったときや行き詰ったときに他管区の取り組みや手法について全国各地に気軽に聞ける環境づくりが大きな目的の一つであったことから、交流を通じて繋がりが深まり、今後の業務に期待できるものとなったと思います。

(海上保安庁交通部整備課)

昭和三十一年一月二十五日  
第三種郵便物認可  
（隔月一回五日発行）

「燈光」

一月号  
第七十卷  
第一号

